

FBC秋花壇

甲南中部小が 名誉大賞受賞

甲南中部小学校の秋花壇がFBC
(フラワー・ブラボー・コンクール)秋
花壇で名誉大賞を受賞されました。

同校は、昭和56年度から毎年春・秋
花壇ともに参加する伝統校。これま
で大賞や農林水産大臣賞などを受賞
し、名誉大賞は2度目となります。



▲名誉大賞を受賞した甲南中部小秋花壇

輝く太陽をイメージ

今回の花壇のテーマは6年の^{たなかあんず}田中杏さんが考えた「かがやけ中部小」。中央の真っ赤なサルビアは太陽をイメージし、中部っ子が太陽に負けないくらい輝き、未来に向かってはばたいていく躍動感を表しています。その周りに配置された黄色は父母、白色は先生、青色はスクールガードの方を表し、子どもたちが多くの人に見守られている様子を表現しています。

5月の種まきから始まり、土作り、ポット移植、花壇への植え付けなど、ボランティア委員会の委員を中心に世話をされました。今年は猛暑で水やりが大変だったそうですが、夏の日差しを浴びて花はぐんぐん大きく育ちました。



▲中央審査を受けるボランティア委員会の皆さん

地域に広がる花づくりの輪

同校では、一人一鉢栽培や花壇の写生、花壇に集まる虫調べ、全校種取り大会など年間を通して、全校みんなが花にふれあっています。

学校での活動に加え、保護者や老人クラブの方と取り組む地区花壇や保育園への花のプレゼントなど、花づくりの輪は地域へも広がっています。

地域全体の育樹意識の高揚に対する功績は多大であり、育樹活動の振興に寄与する活動が高く評価されました。

また、地域の親睦を深め、育樹意識を高める活動として、大原学区民による山林の下刈り、間伐、枝打ちなどの作業を毎年継続的に実施されています。森林環境学習の推進にも古くから取り組まれており、大原小学校6年生による卒業記念植樹はこれまでに116回を数え、地域の森林資源の循環を子どもたちが体感するうえで、有効な学習となっております。



▲全国育樹祭で表彰を受けられた大原共有山財産区管理会の皆さん

全国育樹活動コンクール 大原共有山財産区 管理会が 林野庁長官賞を受賞

平成22年度全国育樹活動コンクールで甲賀町の大原共有山財産区管理会(会長西田貞夫)が林野庁長官賞を受賞され、10月3日に群馬県で開催された第34回全国育樹祭で表彰が行われました。

同会は地元の銘木「甲賀ヒノキ」の立木売却や間伐材の有効利用を図るための基盤整備、地域材の利用促進などに意欲的に取り組まれています。